

検討対象水域（一部）における類型指定の見直しに係る考え方の整理方針（案）

1. 湖沼水域（河川類型を湖沼類型へ見直し）

（1）相模ダム貯水池（相模湖）（全域）

①COD

類型指定判断基準項目	検討結果
利水状況	水道 2 級(湖沼 A 類型相当)
現状水質経年変化	平成 14 年度以降、7 年間湖沼 A 類型相当の水質を満たしている。
汚濁負荷量の推移	経年的に減少傾向を示す。 下水道普及：増加傾向
類型(案)	湖沼 A 類型（基準：3 mg/l）
現行の類型	河川 A 類型
備考	将来水質予測 COD：2.2 mg/L（変動範囲 1.7 ～ 2.7 mg/L）

②全窒素及び全磷

類型指定判断基準項目	検討結果
利水状況	水道 2 級(湖沼 II 類型相当)
現状水質経年変化	全窒素については、平成 6 年度以降、湖沼 II 類型を満足していない。 全磷については、平成 6 年度以降、湖沼 II 類型を満足していない。
汚濁負荷量の推移	経年的に減少傾向を示す。 下水道普及：増加傾向
類型(案)	湖沼 II 類型（基準：全窒素 0.20 mg/l、全磷 0.010mg/L） 全窒素：平成 26 年度までの暫定目標 1.4 mg/L 全 磷：平成 26 年度までの暫定目標 0.085 mg/L
備考	将来水質予測 全窒素：1.43 mg/L（変動範囲 1.33 ～ 1.53 mg/L） 全 磷：0.085 mg/L（変動範囲 0.073 ～ 0.097 mg/L）

(2) 城山ダム貯水池（津久井湖）（全域）

①COD

類型指定判断基準項目	検討結果
利水状況	水道 2 級(湖沼 A 類型相当)
現状水質経年変化	平成 14 年度以降、7 年間湖沼 A 類型相当の水質を満たしている。
汚濁負荷量の推移	経年的に減少傾向を示す。 下水道普及：増加傾向
類型(案)	湖沼 A 類型（基準：3 mg/l）
現行の類型	河川 A 類型
備考	将来水質予測 COD：2.2 mg/L（変動範囲 1.8 ～ 2.6 mg/L）

②全窒素及び全磷

類型指定判断基準項目	検討結果
利水状況	水道 2 級(湖沼 II 類型相当)
現状水質経年変化	全窒素については、平成 6 年度以降、湖沼 II 類型を満足していない。 全磷については、平成 6 年度以降、湖沼 II 類型を満足していない。
汚濁負荷量の推移	経年的に減少傾向を示す。 下水道普及：増加傾向
類型(案)	湖沼 II 類型（基準：全窒素 0.20 mg/l、全磷 0.010 mg/L） 全窒素：平成 26 年度までの暫定目標 1.4 mg/L 全 磷：平成 26 年度までの暫定目標 0.048 mg/L
備考	将来水質予測 全窒素：1.46 mg/L（変動範囲 1.30～1.62 mg/L） 全 磷：0.048mg/L（変動範囲 0.031～0.065 mg/L）

第7回 陸域環境基準専門委員会 資料5 より再掲

1. 河川水域（上位類型見直し）

(1) 相模川下流(寒川取水堰より下流)

類型指定判断基準項目	検討結果
利水状況	水産2級(河川B類型相当)
現状水質経年変化	平成7年度以降、13年間河川B類型相当の水質を満たしている。
発生汚濁負荷量の推移	経年的に減少傾向を示す。
類型(案)	河川B類型 将来予測による平成25年度の水質が河川B類型を満足する見込みである（変動幅による予測も満足）。
現行の類型	河川C類型

☆平成17年度を除くと平成14年度以降では5年間A類型相当の基準値を満たしている。今回の類型指定案としてはB類型とし、今後、経過を見守りつつ次の類型指定の見直しの機会に再度検討を行うこととしてはどうか。